

介護職員自己評価表

2020年7月3日

事業所名	デイケア リハビリセンターきいれ
------	------------------

	正社員	非常勤社員
理学療法士	5人	
看護師	2人	1人
介護福祉士	5人	
実務者・初任者研修	6人	1人

※複数資格者含む

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	備考
前回の課題に関する改善	21.2%	40.9%	19.7%	18.2%	

前回の改善計画	理学療法士がおこなう個別機能訓練にあわせて、トレーナーが取り組むパワーリハビリやコグニサイズを中心に、日中の活動量確保と在宅生活の課題克服に向けた介入をおこなった。なかでも、身体活動に影響を及ぼす自己効力感が低い対象者に対して、積極的な関わりを量的に増やした。直接担当しないスタッフは「ちょっとした声掛け」をおこない、関わりをスタッフ間で共有した。課題であった認知症ケアは、ミッケルアート回想療法を用いて進めた。軽度の認知症対象者では過去の出来事を話すことで楽しい支援に繋がったが、中重度の認知症対象者はその場の空間共有が難しく、個別対応となり進めることができなかった。スタッフのスキルアップは、ミッケルアート回想療法士1級の研修受講を開始し技能習得に努めている。
前回の改善計画に対する取組み結果	新型コロナウイルス感染症対策として、(1) 3時間おきの換気、(2) 3時間おきの検温、(3) 県外移動禁止、(4) 37.0℃以上の出社禁止など、スタッフの協力を得たうえで徹底を図っている。認知症高齢者が多いことから、対象者は基よりスタッフに対しても相当なストレスになっている。日々の面談にあわせて、個別面談もおこない、お互いを励まし合って取り組んでいる。感染症対策を一丸となって取り組むチームワークの良さが、何よりもこの危機を救っている。改善したことは、対象者の日常生活に与える影響を最小化する目的で関わりを量的に増やしたことになる。結果は、対象者に感染症対策による大きな変化はみられず、笑いのある心地いいと感じる支援を維持している。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目(偏差値)	よくできている(60以上)	なんとかできている(50~59)	あまりできていない(40~49)	ほとんどできていない(39以下)	合計
SECTION 1 対象者の接し方や態度について	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	100%
SECTION 2 仕事上の態度について	33.3%	16.7%	33.3%	16.7%	100%
SECTION 3 食事について	0.0%	66.7%	16.7%	16.7%	100%
SECTION 4 移乗や移動について	33.3%	16.7%	33.3%	16.7%	100%
SECTION 5 排泄について	16.7%	66.7%	0.0%	16.7%	100%
SECTION 6 入浴について	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%	100%
SECTION 7 着替えや整容について	16.7%	66.7%	0.0%	16.7%	100%
SECTION 8 服薬について	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100%
SECTION 9 意思疎通について	16.7%	50.0%	16.7%	16.7%	100%
SECTION 10 行動障害について	16.7%	50.0%	0.0%	33.3%	100%
SECTION 11 普通の生活やアクティビティについて	16.7%	50.0%	16.7%	16.7%	100%

自己評価及び改善が必要な事項	新型コロナウイルス感染症対策の一環で、在宅の利用者が利用する事業所と、管理が徹底されている有料老人ホーム等の利用者が利用する事業所を区分し、そのうえで厳しい体調管理をおこない、さらに接触の制限をおこないながら運営している。利用者の契約変更を伴ったことで、いつもと違うと感じる違和感を対象者に与えた。制限された支援を余儀なくされ、利用者の日常生活に影響を与えることが想定されたことから、影響を最小化する目的で関わりを量的に増やした。結果は、当初は混乱がみられたものの徐々に笑いが見られ出し、あちこちに笑いのある通常の支援に戻った。数日後には、変化がある対象者はみられず、笑いのあるお互いが心地いいと感じるいつもの支援に戻った。長期的な計画が求められる新型コロナウイルス感染症対策と認知症ケアの両立、対象者とスタッフへの影響が課題である。スタッフが一丸となって困難な局面に取り組んでいる。支援は、回想療法にあわせて簡単な計算や文章の音読を取り入れた学習療法などの認知症ケアを家庭的な関わりを重視し提供している。
	主任 濱上 宏樹

外部評価者	新型コロナウイルス感染症対策として、3時間おきの換気と検温、37.0℃以上の職員の出社禁止等の徹底を図っていました。また、事業所間で役割を定め、利用者の影響をコントロールしながらリスク管理を行い、導入に関しては、職員に十分な説明を行い、協力を得たうえで実施につなげていました。こちらは、高齢で虚弱な高齢者が多い事業所になり感染症対策の徹底が求められます。長期的な取り組みが想定されるだけに、利用者だけでなく職員に与える影響を検討する必要があります。驚いたことは、お互いを励まし合って、利用者に適した支援を模索していることです。「チームワークの良さが、何よりも救いになります。」という言葉からそのことが理解できました。一方で、この影響は認知症高齢者に強く生じることを注意する必要があります。認知症ケアは程度により異なり、影響も違います。軽度の認知症で活用できた支援が中重度で活かせるとは限りません。軽・中度では回想療法を、重度では感情に直接訴える「笑い」などを用いて支援していました。直接担当しない介護職員が「ちょっとした声掛け」を行なうなど、感染症対策を踏まえた関わり方と量を検討しサービスにつなげていました。これらのことは、今年入社した新卒者に良い影響を与えます。メンターを中心とした指導体制を整えておられますので「声掛け」を勉強会のテーマにして、しっかりと学びにつなげてくださることを期待しています。これからの地域に根差した事業所として頑張ってください。
	〒891-0141 鹿児島市谷山中央5丁目37番1号 特定非営利活動法人かごしま福祉開発研究所 社会福祉学博士 岩崎 房子